セクション名	ページ
[第1章] CloudFormationの基本要素と機能	1
1-1 CloudFormationを構成する要素	3
1-2 CloudFormationの主な機能	4
①スタックの作成・更新・削除	4
② 変更セット	5
③ ドリフト	5
④ トラント④ ネスト	6
⑤スタックセット 1.2 エンプ・・・ ファイルの地帯	6
1-3 テンプレートファイルの概要	7
1-3-1 YAML形式とJSON形式	7
1-3-2 テンプレートファイルのセクション	8
1-3-3 リソースセクションの概要	9
1-3-4 デフォルト設定に注意	12
1-3-5 おまけ 1:EC2「接続」のネットワーク構成	16
1-3-6 おまけ2:①EC2 Instance Connect で1) インスタンスにパブリックIP(IPv4)を利用して接続するとき	17
1-3-7 VPCエンドポイント作成のテンプレート例	19
1-3-8 予算超過時の通知設定のテンプレート例	21
[第 2 章] CloudFormationの機能とコンソール画面	25
2-1 スタックの作成	27
2-1-1 <オペレーション> スタックの作成の例	27
2-1-2 ステップ 1:スタックの作成	28
2-1-3 ステップ 2:スタックの詳細を指定	29
2-1-4 ステップ 3:スタックオプションの設定	30
2-1-5 ステップ 4:確認して作成	31
2-1-6 スタック作成開始	33
2-2 スタックの更新	35
2-2-1 <オペレーション> スタックの更新	36
2-2-2 ステップ 1 : スタックの更新	37
2-2-3 ステップ 2:スタックの詳細を指定	37
2-2-4 ステップ 3: スタックオプションの設定	38
2-2-5 ステップ 4:レビュー (スタック名)	39
2-2-6 実行と結果確認	40
2-2-7 スタックアクション: スタックの更新をキャンセル	41
2-2-7 スタックアクション: 更新ロールバックを続ける	41
2-2-9 スタック更新の留意点 2-3 スタックの削除	44 48
2-3-1 削除したスタックの表示	49
2-3-1 削除したスタックの表示 2-3-2 リソースを削除しない設定	
	50
2-3-3 テンプレートファイルS3DeletionPolicy.yaml	51
2-3-4 スタック削除のエラー	51
2-4 スタック情報の表示	52
2-4-1 スタックの一覧画面と削除済みスタック	52
2-4-2 スタックの詳細	52
2-4-3 スタックの詳細画面: 「スタックの情報」タブ	53
2-4-4 スタックの詳細画面:「イベント」タブ	54
2-4-5 スタックの詳細画面:「リソース」タブ	55
2-4-6 スタックの詳細画面:「出力」タブ	56
2-4-7 スタックの詳細画面:「パラメータ」タブ	57
2-4-8 スタックの詳細画面:「テンプレート」タブ	57
2-4-9 スタックの詳細画面:「変更セット」タブ	58
2-4-10 スタックの詳細画面:Gitと同期(Git sync)	60
2-4-11 CloudFormationが自動で登録するタグ	60
2-4-12 スタックの作成の補足	61
2-5 スタック作成・更新ウィザードの選択肢	62
2-5-1 ステップ 1:スタックの作成	62
2-5-2 ステップ 2	65
2-5-3 ステップ 3: タグ(タグ)	65

セクション名	ページ
2-5-4 ステップ 3:IAMロール(アクセス許可)	66
2-5-5 ステップ3:プロビジョニング失敗時の動作(スタックの失敗オプション)	67
2-5-6 ステップ3:ロールバック中に新しく作成されたリソースを削除する(スタックの失敗オプション)	68
2-5-7 ステップ3:スタックポリシー(詳細オプション)	68
2-5-8 ステップ3:ロールバック設定(詳細オプション)	69
2-5-9 ステップ3:詳細オプション 通知オプション	70
2-5-10 ステップ 3:スタックの作成オプション(タイムアウトと削除保護)	72
2-5-11 ステップ 4: クイック作成リンク	73
2-5-12 ステップ 4:変更セットの作成	75
2-5-13 AppliCation Managerで表示	76
2-6 スタックポリシー	77
2-6-1 スタックポリシーの注意点	79
2-7 エラーメッセージ例	80
2-7-1 ウィザード中 ステップ 1 でのエラー	80
2-7-2 ウィザード中 ステップ 3 でのエラー	82
2-7-3 ウィザード中 ステップ 4 でのエラー	82
2-8 ドリフト	84
2-8-1 ドリフト結果を表示	85
2-8-2 ドリフト結果を表示 その2	86
2-8-3 ドリフトの詳細を表示	87
2-8-4 特定のリソースのみドリフトを検出する	89
2-8-5 ドリフトの注意点	90
2-9 変更セットの作成・実行	93
・変更セット:「変更」タブ	94
・変更セット:「入力」タブ	97
・変更セット:「テンプレート」タブ	98
・変更セット:「JSONの変更」タブ	99
・変更セット:「フックの呼び出し」タブ	99
・「変更セットを実行」ボタン	100
2-9-1 変更セットの作成方法3つ	101
2-9-2 変更セットのプレビュー	104
2-9-3 変更セット補足	104
2-10 置換(replacement)	105
2-10-1 置換で削除しない設定(UpdateReplacePolicy: Retain)	106
2-10-2 置換のリソース削除タイミング	108
2-10-3 置換が発生する設定項目か確認する	110
2-10-4 置換が発生する時は「ロールバックの一時停止」が利用できない	111
2-11 ロールバックと一時停止(正常にプロビジョニングされたリソースの保持)	112
2-11-1 ロールバックの一時停止画面	114
2-11-2 「スタックのロールバックが一時停止されました」メッセージ意訳	115
2-11-3 「スタックのロールバックが一時停止されました」の選択肢	116
2-11-4 (参考)「正常にプロビジョニングされたリソースの保持」のコマンド	117
2-11-5 「スタックの失敗オプション」選択時の注意点	118
2-12 リソースのインポート(既存方式) 2-12-1 新規スタックにインポート(Webマネジメントコンソール)	120
2-12-1 新規スタックにインホート(Webマネシメントコンソール) 2-12-2 既存スタックにインポート(Webマネジメントコンソール)	121 124
2-12-3 リソースがインポート可能か確認する	
2-12-3 リソースがインボートロ形が確認する 2-12-4 リソースのインポートエラー	125 125
2-12-5 インポートの注意点など	129
2-12-5 インホートの注息点なと 2-13 コマンドでインポート(CREATE-CHANGE-SETオプション)	130
2-13 コマンド C1 フボード(CREATE-CHANGE-SET/フション) 2-13-1 既存のインポート(create-change-setchange-set-type IMPORT)	130
2-13-1 成形のインボード(Create-Change-SetChange-Set-type IMFORT) ・resources-to-import オプション	130
・一意の識別子の確認方法(get-template-summaryコマンド)	131
・ 意の識別子の確認の法(get-template-summaryコャント) ・複数のResourceidentifier	135
・ 後数のResourceIdentinei ・インポートできないリソースタイプ	135
・resources-to-importで指定するJSONファイルの例	136
・create-change-setcapabilities 要不要判断	130
G CULC CHUNGE JOE CUPUDINCICS STESTINI	13/

詳解 AWS CloudFormation 目次

セクション名	ページ
・コマンド実行:インポート用変更セットの作成	137
・利用テンプレートサンプル autoscaling.yaml	139
2-13-2 コマンドでインポート(カスタム名指定)(import-existing-resources)	141
・主な制限事項など	141
・コマンド実行例	142
2-14 GITと同期(Git sync)	145
2-14-1 デベロッパー用ツール「接続」	145
2-14-2 GitHub側の設定	151
2-14-3 デプロイファイル	151
2-14-4 Gitと同期を利用して新規スタックを作成	152
2-14-5 デプロイファイルをスタック作成ウィザード中で作成	156
2-14-6 既存のスタックをGitと同期	158
2-14-7 2つのロール	159
2-14-8 Gitと同期のエラーなど	161
2-15 ネスト	163
	163
2-15-2 ネストの階層	165
2-15-3 ネストされたスタックのOutputs値を親スタックから参照する	165
2-15-4 <画面>ネストされたスタックのWebマネジメントコンソール表示	168
2-15-5 ネストとタグの伝播	169
2-15-6 既存スタックのインポート(ネストされたスタックとしてインポート)	169
2-15-7 ネストの更新 (*初版修正PDFあり)	171
2-15-8 ネストの変更セット (*初版修正PDFあり)	171
2-15-9 ネストの変更セット:ルートスタックのみ更新 (*初版修正PDFあり)	172
2-15-10 ネストとドリフト検知	173
2-15-11 ネストの削除	173
2-15-12 ネストの活用例	174
2-15-13 ネストの考慮点など	175
2-16 スタックセット(StackSets)	176
2-16-1 スタックセット概要	176
2-16-1-1 スタックインスタンス	176
2-16-1-2 スタックセットのアクセス許可設定	177
許可設定①「セルフサービスのアクセス許可」(①SELF_MANAGED):管理ロールと実行ロール	177
許可設定②「サービスマネージドアクセス許可」(②SERVICE_MANAGED):AWS組織を利用	179
2-16-1-3 スタックインスタンスのデプロイ先(作成・更新)	180
①「セルフサービスのアクセス許可」のデプロイ先	180
②「サービスマネージドアクセス許可」のデプロイ設定	183
2-16-1-4 スタックインスタンスで管理する情報	185
スタックセットの設定の更新	185
2-16-1-5 委任された管理者(Delegated administrator)	188
委任された管理者の委任範囲	188
2-16-1-6 ドリフトの検出	189
2-16-1-7 スタックインスタンスのパラメータを上書きする	190
・パラメータの上書きの注意点	190
2-16-1-8 スタックをコピーする(テンプレートの指定でスタックIDを指定)	191
2-16-1-9 スタックをスタックセットにインポート	192
2-16-1-10 1つのアカウント内でスタックセットを利用する	193
2-16-1-11 自動デプロイ	193
2-16-2 スタックセットの操作	194
・スタックセットの操作一覧	194
2-16-2-1 StackSetsの一覧	194
2-16-2-1 StackSetの作成	196
StackSetsの作成ウィザードのステップと項目(新しいスタックのデプロイ)	198
作成 ステップ 1 テンプレートの選択	190
選択肢一覧	199
作成 ステップ 2 StackSet の詳細を指定	202
作成 ステップ3 StackSet オプションの設定	202
	200

	ページ
作成 ステップ4 デプロイオプションの設定	204
「ステップ4デプロイオプションの設定」選択項目	205
作成 ステップ4-1 スタックセットにスタックを追加	205
作成 ステップ4-2 アカウント	206
作成 ステップ4-3 デプロイターゲット	207
・組織へのデプロイ	207
・組織単位(OU)へのデプロイ	207
・アカウントフィルタータイプ - オプション	209
・注意点	210
作成 ステップ4-4 リージョンの指定	210
作成 ステップ4-5 自動デプロイオプション	211
作成 ステップ4-6 デプロイオプション	212
・同時アカウントの最大数-オプション	212
・耐障害性・オプション	213
・リージョンの同時実行(ステップ4-6デプロイオプション)	213
・同時実行モード(ステップ4-6デプロイオプション)	213
作成 ステップ5 レビュー	214
2-16-2-3 StackSetの詳細表示	215
StackSetの詳細 - スタックセットの情報 タブ	215
StackSetの詳細 - スタックインスタンス タブ	216
StackSetの詳細 - パラメータタブ	217
StackSetの詳細 - オペレーション タブ	217
StackSetの詳細 - テンプレートタブ	219
2-16-2-4 アクションボタン(スタックセットの更新・削除)	219
2-10-2-4 アウンヨンボタン(ベタック ピットの英編・前塚) (1)StackSetにスタックを追加	219
(1)StackSetにスタックを追加 ・「StackSet にスタックを追加」のステップと項目(新しいスタックのデプロイ)	220
	220
(1)スタックを追加 ステップ 1デプロイオプションの設定	
(1)スタックを追加 ステップ 2上書きの指定	221
(1)スタックを追加 ステップ 3 レビュー (1)Standordにフロックを追加 オラ	222
(1)StackSetにスタックを追加 補足	222
(2)StackSetの詳細を編集	223
(2)詳細を編集 ステップ 1 テンプレートの選択 (2)詳細を編集 ステップ 2 Stack の詳細を指定	224
(2)詳細を編集 ステップ 2 StackSet の詳細を指定	225
(2)詳細を編集 ステップ 3 StackSet オプションの設定	225
(2)詳細を編集 ステップ 4 デプロイオプションの設定	226
・「ステップ4デプロイオプションの設定」選択項目	227
・組織単位へのデプロイ、アカウントへのデプロイ	227
・組織単位(OU)	227
・アカウント	230
・リージョンの指定	231
・全スタックインスタンスを対象と指定する場合	231
(2)詳細を編集 ステップ 5 レビュー	232
(3)StackSetのパラメータを上書き	232
(3)パラメータを上書き ステップ 1 デプロイオプションの設定	233
(3)パラメータを上書き ステップ 2 上書きの指定	234
(3)パラメータを上書き ステップ 3 レビュー	235
(3)パラメータを上書き 補足:「StackSetのパラメータを上書き」の設定をコマンドで確認する	235
(4)StackSetからスタックを削除	238
(4)スタックを削除 ステップ 1 デプロイオプションの設定	239
(5)自動デプロイを編集	239
(6)ドリフトの検出	240
(7)StackSetの削除	243
2-16-2-5 停止オペレーション(StackSets作成・更新の停止)	244
2-16-2-6 スタックをスタックセットにインポート	245
スタックセットヘインポートの主な制約	248
2-16-2-7 スタックセットのデプロイに失敗したとき	249
2-16-2-8 失敗したスタックのみで再実行する	250

セクション名	ページ
「StackSetの詳細を編集」で失敗したスタックを再実行する	250
「スタックを追加」で失敗したスタックを再実行する	251
2-16-3 「②サービスマネージドアクセス許可」の制限事項	251
2-16-4 アカウントゲート	252
2-16-5 StackSetの事前準備作業	254
①「セルフサービスのアクセス許可」事前準備	254
事前準備:管理ロールを作成するテンプレートの例	254
事前準備:実行ロールを作成するテンプレートの例	256
②「サービスマネージドアクセス許可」事前準備	258
②-1AWS Organizationsで組織を作成する	259
②-2 信頼されたアクセスを有効にする	260
②-3 組織にメンバーアカウントを登録する	261
2-16-6 委任された管理者を設定する	264
・必要な権限	264
・<画面>委任された管理者を登録	264
2-17 Application Composer	265
2-17-1 Application Composerの起動と終了	266
①CloudFormationのWebマネジメントコンソール トップ画面	266
②スタックの作成ウィザード	268
③スタックを更新・変更セットの作成	270
④スタック詳細「テンプレート」タブ	272
2-17-2 Application Composerの基本操作	273
2-17-2-1 メニュー	274
2-17-2-2 キャンバス ビュー	276
2-17-2-3 テンプレートビュー	281
2-17-3 旧ツールのCloudFormationデザイナーについて	285
2-18 IACジェネレーター	287
2-18-1 オペレーション	288
スキャン	288
テンプレートを作成	288
参照できない値	293
インポート	294
2-18-2 考慮事項	297
2-19 拡張機能(EXTENSIONS)とレジストリ	299
2-19-1 リソースタイプ	300
オペレーション	301
サンプルテンプレート role-for-AwsCommunity-Time.yaml	302
AwsCommunity::Time::Static 利用テンプレート例	305
2-19-2 モジュール	306
オペレーション	308
AWSQS::VPC::VPCQS::MODULE利用テンプレート例	310
2-19-3 フック	310
フックの実行ロール	311
フックの設定JSON	312
設定JSON記載例 1	312
設定JSON記載例(StackFilters利用)	313
オペレーション	314
サンプルテンプレート role-for-hook.yaml	316
設定JSON記載例	318
フック実行例	320
[第3章] コマンド操作	323
3-1 スタック操作系コマンド(API名を利用)	325
3-1-1 スタック新規作成(直接作成)(create-stack)	328
3-1-2 スタックを直接更新(update-stack)	330
3-1-3 実行結果の確認 (wait)	331
3-1-3-1 スタック作成の確認(stack-create-complete)	332
3-1-3-2 変更セット作成の確認(change-set-create-complete)	332

セクション名	ページ
3-1-3-3 ロールバックの完了確認(stack-rollback-complete)	332
3-1-4 スタックの更新をキャンセル(cancel-update-stack)	333
3-1-5 スタックの一覧(list-stacks)	333
3-1-6 スタックの一覧(describe-stacks)	334
3-1-7 スタックのイベントを表示(describe-stack-events)	335
3-1-8 スタックのリソース一覧(list-stack-resources)	336
3-1-9 スタックのリソース詳細情報一覧(describe-stack-resources)	337
3-1-10 スタックのリソース詳細情報(describe-stack-resource)	338
3-1-11 更新ロールバックを続ける(continue-update-rollback)	339
3-1-12 スタックをロールバック(rollback-stack)	339
3-1-13 テンプレートを取得(get-template)	340
3-1-14 スタック削除 (delete-stack)	340
3-1-15 変更セットを作成 (create-change-set)	341
3-1-15-1 既存スタックに変更セット作成 (change-set-type UPDATE)	343
3-1-15-2 新規スタックに変更セット作成 (change-set-type CREATE)	343
3-1-15-3 インポート用の変更セット作成 (change-set-type IMPORT)	344
3-1-16 変更セットを実行 (execute-change-set)	345
3-1-17 変更セットの内容確認 (describe-change-set)	346
3-1-18 変更セット削除 (delete-change-set)	347
3-1-19 変更セットの一覧(list-change-sets)	347
3-1-20 ドリフトの検出(detect-stack-drift)	348
3-1-21 ドリフトの検出(describe-stack-drift-detection-status)	349
3-1-22 ドリフト結果を表示(describe-stack-resource-drifts)	350
3-1-23 特定のリソースのドリフトを検出(detect-stack-resource-drift)	351
3-1-24 スタックポリシーを設定(set-stack-policy)	351
3-1-25 スタックポリシーを取得(get-stack-policy)	352
3-1-26 テンプレートの事前検証(validate-templateコマンド)	352
3-1-27 エクスポート一覧(list-exports)	353
3-1-28 エクスポートをインポートしているスタック一覧(list-imports)	354
3-1-29 スタックの保護設定を変更 (update-termination-protection)	354
3-2 共通のコマンドオプション (API名を利用)	356
3-2-1 スタック名(stack-name)	357
3-2-2 テンプレートファイル(template-body,template-url)	358
3-2-3 前回のテンプレートを利用(use-previous-template)	359
3-2-4 変更セット名(change-set-name)	359
3-2-5 明示的な承認(capabilities)	360
3-2-6 パラメータ指定(parameters)	361
3-2-7 実行ロール(role-arn)	363
3-2-8 スタックの失敗オプション(ロールバックの一時停止) (on-failure,on-stack-failure,disable-rollback)	363
3-2-9 失敗時は新規作成リソースをすべて削除(retain-except-on-create)	368
3-2-10 SNS通知(notification-arns)	369
3-2-11 ロールバック設定(CloudWatchアラーム利用)(rollback-configuration)	369
3-2-12 タイムアウト(timeout-in-minutes)	369
3-2-13 リソースタイプを制限(resource-types)	370
3-2-14 スタックポリシー(stack-policy-body,stack-policy-url)	370
3-2-15 夕グ付与(tags)	370
3-2-16 クライアントリクエストトークン(識別子)(client-request-token)	371
3-3 スタック作成・更新コマンド(DEPLOY)	374
3-3-1 deployコマンド 概要と特徴	375
3-3-1-1 必須オプションのみのコマンド例	375
3-3-1-2 テンプレートファイル指定 (template-file)	377
3-3-1-3 テンプレートのアップロード (s3-bucket,s3-prefix,kms-key-id)	377
3-3-1-4 パラメータ (parameter-overrides)	377
3-3-1-5 明示的な承認(capabilities)	379
3-3-1-6 変更セットのみ作成して終了 (no-execute-changeset)	379
3-3-1-3 変更がない場合エラーコード (fail-on-empty-changeset)	380
3-4 スタックセット用コマンド	381

セクション名	ページ
3-4-1 スタックセット新規作成(create-stack-set)	383
3-4-2 スタックセット更新(update-stack-set)	386
3-4-3 スタックインスタンス作成(create-stack-instances)	388
3-4-4 スタックインスタンスを更新(update-stack-instances)	390
3-4-5 スタックインスタンスを削除(delete-stack-instances)	391
3-4-6 スタックセットにインポート(import-stacks-to-stack-set)	392
3-4-7 スタックセットの実行の停止(stop-stack-set-operation)	393
3-4-8 スタックセット削除(delete-stack-set)	395
3-4-9 組織の信頼されたアクセスを有効化(activate-organizations-access)	395
3-4-10 組織の信頼されたアクセスを無効化(deactivate-organizations-access)	396
3-4-11 組織の信頼されたアクセスの情報(describe-organizations-access)	396
3-4-12 スタックセットの一覧(list-stack-sets)	397
3-4-13 スタックセット情報(describe-stack-set)	397
3-4-14 スタックセット内の各インスタンスの情報(list-stack-instances)	399
3-4-15 スタックセット内の各スタックの情報(describe-stack-instance)	400
3-4-16 スタックセットのオペレーション一覧(list-stack-set-operations)	400
3-4-17 スタックセットのオペレーション結果情報(list-stack-set-operation-results)	401
3-4-18 オペレーションの詳細情報(describe-stack-set-operation)	403
3-4-19 スタックセットのドリフト検知(detect-stack-set-drift)	404
3-4-20 スタックインスタンスのリソースドリフト一覧(list-stack-instance-resource-drifts)	405
3-4-21 自動デプロイのターゲット(list-stack-auto-deployment-targets)	406
3-5 共通のコマンドオプション(スタックセット)	408
3-5-1 スタックセット名(stack-set-name)	408
3-5-2 テンプレートファイル(template-body,template-url)	408
3-5-3 明示的な承認(capabilities)	409
3-5-4 許可モデル(permission-model)	409
3-5-5 管理ロールのARN(administration-role-arn)	410
3-5-6 実行ロール名(execution-role-name)	410
3-5-7 自動デプロイ(auto-deployment)	410
3-5-8 デプロイ先リージョン(regions)	411
3-5-9 デプロイ先アカウントID(accounts)	412
3-5-10 サービスマネージドのデプロイ先(deployment-targets)	412
3-5-11 パラメータ(parameters)	413
3-5-12 パラメータの上書き(parameter-overrides)	414
3-5-13 タグ付与(tags)	415
3-5-14 マネージド型の実行(managed-execution)	415
3-5-15 デプロイオプション(operation-preferences)	416
3-5-16 委任された管理者として実行(call-as)	417
3-5-17 オペレーションID(operation-id)	418
3-5-18 スタックインスタンスのアカウントID(stack-instance-account)	419
3-5-19 スタックインスタンスのリージョン(stack-instance-region)	419
3-6 IACジェネレーター用コマンド	420
3-6-1 リソーススキャンを開始	420
3-6-2 リソーススキャンの進捗を表示	421
3-6-3 リソーススキャンの一覧	422
3-6-4 リソーススキャンに含まれるリソースの一覧	422
3-6-5 リソーススキャンに含まれるリソースの関連リソース一覧	424
3-6-6 IaC ジェネレーターにテンプレートを作成	425
3-6-7 IaC ジェネレーターのテンプレートを更新	427
3-6-8 IaC ジェネレーターのテンプレートを削除	428
3-6-9 IaC ジェネレーターのテンプレート一覧	428
3-6-10 IaC ジェネレーターのテンプレート詳細表示	429
3-6-11 IaC ジェネレーターのテンプレート表示	430
3-7 拡張機能用コマンド	432
3-8 その他コマンド	434
3-8-1 テンプレートのサマリーを作成 (get-template-summary)	434
3-8-2 コストを試算する(estimate-template-cost)	437

セクション名	ページ
3-8-3 record-handler-progress	348
3-8-4 シグナル送信(signal-resource)	438
[第 4 章] テンプレートファイル の構造と仕様	441
4-1 セクション	443
4-1-1 形式バージョン(AWSTemplateFormatVersion)セクション	444
4-1-2 Descriptionセクション	444
4-1-3 Metadataセクション	445
CloudFormation固有のメタデータキー	445
AWS::CloudFormation::Interfaceメタデータキー	445
4-1-4 パラメータ(Parameters)セクション	448
Parametersセクションの属性	449
文字列の制約:長さ制限(MaxLength,MinLengthプロパティ)	449
文字列の制約:正規表現で制約(AllowedPatternプロパティ)	450
入力項目の初期値(Default)	450
入力項目の説明(Description)	451
入力制限に違反した時のメッセージカスタマイズ(ConstraintDescription)	451
数値の範囲を指定(MinValue,MaxValue)	452
・ ドロップダウンリストで単一選択式(AllowedValues)	453
ドロップダウンリストで複数選択式(AllowedValuesとList<>)	454
入力した値をマスクして表示(NoEcho)	454
ParametersセクションのType	456
String & Number	457
配列:CommaDelimitedListタイプ(コンマ区切りの一覧)	458
配列:List <string>タイプ</string>	459
AWS固有のパラメータタイプ(AWS-specific parameter type)	461
AWS固有のパラメータタイプの配列	462
AWS::EC2::Image::Idについて	463
SSMパラメータタイプ	464
SSMパブリックパラメータ テンプレートサンプル	466
4-1-5 ルール(Rules)セクション	467
Conditionsセクションとの比較	468
ルール固有の組み込み関数(Rule Functions, rule-specific intrinsic functions)	470
値や値の配列を返すルール固有の組み込み関数	470
1.Fn::ValueOf	470
2.Fn::ValueOfAll	472
3.Fn::RefAll	473
true/falseを返すルール固有の組み込み関数	474
1.Fn::And	474
2. Fn::Or	475
3. Fn::Not	475
4. Fn::Equals	476
5.Fn::EachMemberEquals	477
6.Fn::Contains	478
7.Fn::EachMemberIn	479
4-1-6 Mappings セクション	480
①Mappingsセクション	480
②ResourcesセクションでFn::FindInMapを利用	482
③ResourcesセクションでFn::FindInMap 拡張機能を利用	483
4-1-7 条件(Conditions)セクション	485
条件関数(Condition functions)	485
条件関数(Condition functions)一覧	485
4-1-8 変換(Transform)セクション	487
4-1-9 リソース(Resources)セクション	488
Type	489
Properties	489
DeletionPolicy	490
UpdateReplacePolicy	491

セクション名	ページ
UpdatePolicy	491
DependsOn	492
Metadata	493
CreationPolicy	494
Condition	495
リソースセクションで利用できる動的な参照(Dynamic references)	495
動的な参照:SSMパラメータストアの文字列タイプ	495
動的な参照:SSMパラメータストアの安全な文字列	497
動的な参照:Secrets Managerシークレット	498
動的な参照の留意点	500
4-1-10 出力(Outputs)セクションとエクスポート	500
クロススタックの参照(ExportとFn::ImportValue)	502
クロススタック利用時の注意点	503
ネストとクロススタック、SSMパラメータの比較	506
補足:SSMパラメータでのスタック間の値の授受例	507
4-1-11 補足: AWS Systems Managerパラメータストア	508
AWS Systems Manager(SSM)パラメータストア 概要	508
SSMパラメータストアのタイプ	509
CloudFormationでSSMパラメータを作成	509
<オペレーション例>SSMパラメータの作成	510
<オペレーション例>SSMパラメータの作成(コマンド)	512
くオペレーション例>SSMパブリックパラメータの確認	513
<オペレーション例>SSMパブリックパラメータの確認(コマンド)	514
4-1-12 補足: AWS Secrets Managerシークレット	516
AWS Secrets Manager概要	516
CloudFormationでシークレットを作成	516
RDSオプション: AWS Secrets Managerでマスター認証情報を管理する	517
ローテーション用のLambdaについて	517
4-1-13 補足: EC2 AMI IDとSSMパブリックパラメータ	518
SSMパブリックパラメータ利用(Parametersセクション)	518
SSMパブリックパラメータ利用(動的な参照)	520
4-2 組み込み(intrinsic)関数	521
4-2-1 Ref	522
4-2-2 Fn::GetAtt	523
4-2-3 Fn::Sub	525
4-2-4 Fn::Base64	527
4-2-5 Fn::Cidr	527
4-2-6 Fn::FindInMap	529
4-2-7 Fn::GetAZs	530
4-2-8 Fn::ImportValue	532
4-2-9 Fn::Join	532
4-2-10 Fn::Select	533
4-2-11 Fn::Split	534
4-3 条件関数 (Condition Functions)	535
4-4 疑似(pseudo)パラメータ	536
4-5 EC2向けの機能: ヘルパースクリプト (CloudFormation Helper Scripts)	537
4-5-1 cfn-signal	537
リソースシグナリング(推奨)	538
CreationPolicy	539
UpdatePolicy(AutoScalingGroup)	540
リソースシグナリングテンプレート例(Linux)	541
リソースシグナリングテンプレート例(Windows)	541
リソースシグナリングで必要な通信	542
ウェイトコンディションハンドル(WaitConditionHandle)	543
AWS::CloudFormation::WaitConditionHandle	544
AWS::CloudFormation::WaitCondition	544
ウェイトコンディションハンドルのサンプルテンプレート	544
ノエ コファ フ コフハン /レ♡/フフフ/レ/ フ / レ	J T 7

マクション名	ページ
cfn-signal WaitConditionで使うS3バケット	546
4-5-2 cfn-init	547
4-5-3 cfn-get-metadata	549
4-5-4 cfn-hup	550
4-5-5 MetadataのAWS::CloudFormation::Init	553
packages	553
groups	554
users	554
sources	555
files	556
commands	557
services	558
configSets	559
4-5-6 MetadataのAWS::CloudFormation::Authentication	560
①インスタンスのロール名を記載	560
②アクセスキーとシークレットキーを記載	560
4-5-7 補足 1:EC2ユーザーデータ概要	561
4-5-7-1 Linux用のユーザーデータ	562
Linuxシェルスクリプト	562
Linux cloud-configデータ	562
packages	563
runcmd	563
cloud-configデータの例	563
その他のフォーマット	564
4-5-7-2 Windows用のユーザーデータ	565
Windows① バッチスクリプト(XMLユーザーデータ)	566
Windows② PowerShellスクリプト(XMLユーザーデータ)	566
スクリプト途中の再起動とXMLユーザーデータのオプション	566
Windows③YAML ユーザーデータ v1.1	567
Windows用ユーザーデータサンプルテンプレート	569
4-5-8 補足2: UserDataのYAML表記とJSON表記	571
4-6 変換:Transform	573
「変換」一覧	575
4-6-1 AWS::Include (Fn::Transform)	576
a) テンプレートの一部分にファイルを挿入	576 578
b) テンプレート全体を書き換え AWS::Includeの制限など	579
AWS.::Iciddeo	580
Fn::Length	580
Fn::ToJsonString	581
DeletionPolicy と UpdateReplacePolicy で組み込み関数が利用可能	583
例2-3.LANGEXTENSION_sample_OK2.template	583
Fn::FindInMapの拡張機能	585
Fn::ForEach	585
ForEachサンプルテンプレート*	586
ForEach二重利用のサンプルテンプレート	587
Fn::ForEach 注意点など	588
エラー例1)組み込み関数	589
エラー例 2) AWS固有のパラメータタイプ	589
エフーデュン AWS回行のパクスータタイプ 4-6-3 AWS::Serverless (AWS SAM)	590
SAM変換リソースタイプ	590
AWS::Serverless::Function 例	593
AWS::Serverless::Function の Event で指定可能なトリガー	593
AWS::Serverless::StateMachineの例	59 4
AWS::Serverless::StateMachineの Events で指定可能なトリガー	597
SAM権限設定	597
AMITERASSIE 権限設定①AWS SAMコネクタ(AWS::Serverless::Connector)	598

セクション名	ページ
権限設定② SAMポリシーテンプレート	599
4-6-4 AWS::SecretsManager	601
4-6-5 AWS::CodeDeployBlueGreen	603
4-7 循環参照(circular dependencies)問題と解決方法	604
4-7-1 セキュリティグループで発生する循環参照(自己参照)	606
自己参照の解決方法:別リソースとして登録する	607
セキュリティグループ間で発生する循環参照	608
セキュリティグループ間の循環参照の解決例	609
4-7-2 ポリシーで発生する循環参照	611
テンプレート概要説明	611
解決方法① IAMポリシーを別リソースに切り離し	614
解決方法②KMSキーポリシーからIAMポリシーへ記載変更	614
4-7-3 依存関係(DependsOn)で発生する循環参照	618
解決方法①値を作成する	620
解決方法②インポートで対応	622
4-8 テンプレートファイルの主な上限	623
[第 5 章] CloudFormationのカスタマイズ方法 概要	625
5-1 カスタムリソース	628
5-2 マクロ	631
5-3 モジュール(MODULE)	635
5-4 拡張機能(EXTENSIONS)リソースタイプとフック	640
[第 6 章] CloudFormation用ツール	641
6-1 cfn-lint	643
6-1-1 インストール	643
6-1-2 利用例	643
6-1-3 グラフ構造(-gオプション)	646
6-1-4 VisualStudio Code用 cfn-lint拡張機能	647
6-2 cfn-flip	650
6-3 cfn_nag	652
6-3-1 インストール	653
6-3-2 利用例	653
6-4 rain	655
6-4-1 インストール	656
6-4-2 利用例	656
6-5 AWS CloudFormation GUARD (cfn-guard)	658
6-5-1 実行例:	658
6-5-2 インストール	659
6-5-3 ルールセットファイル(ガードファイル)の文法	660
クエリとフィルタリング	660
Clauses(条項)	661
クエリとClauses(条項)	663
ルールセットファイルの基本構造	664
コメント	664
let	664
rule	664
when	664
ルール本文	664
ルールのANDとOR	665
ユニットテスト	666
6-6 taskcat	669
6-7 Former2	673
6-8 cfn-docgen	675
6-9 AWS SAM コマンドラインインターフェイス (AWS SAM CLI)	677
6-9-1 インストール (pip利用)	678
6-9-2 インストール(インストーラ利用)	680
6-10 CloudFormation CLI (cfn)	682
「第 7 章] JSONで理解するYAMLフォーマット	683

686 686
685 686 686
686
686 686 687
687
688
688
688
689
689
690
690
691
693
694
694
695
696
699
699
701
702

下記表参照

セクション	一覧表名	ページ
2-16-2	スタックセットの画面操作一覧	194
2-16-2-4	スタックセットの更新・削除の「アクション」ボタン機能一覧	219
3-1	スタック操作系のコマンド一覧	327
3-1-3	waitコマンド一覧	331
3-2	共通のコマンドオプション一覧	356
3-3	deployコマンド特有のオプション一覧	374
3-4	スタックセット用コマンド一覧	381
3-6	IaCジェネレータ用コマンド一覧	420
3-7	拡張機能用コマンド一覧	432
4-1	セクション一覧	443
4-1-4	Parametersセクションの属性一覧	449
4-1-4	ParametersセクションのType一覧	456
4-1-4	CommnaDelimitedListとListの比較	460
4-1-4	ParametersセクションでサポートされているSSMパラメータタイプ一覧	464
4-1-5	ルール固有の組み込み関数:値や値の配列を返す関数一覧	470
4-1-5	ルール固有の組み込み関数:true/falseを返す関数一覧	474
4-1-9	Resources セクションのリソースの属性一覧	488
4-1-9	DeletionPolicyの値と動作一覧	490
4-1-9	UpdateReplacePolicy 値と動作一覧	491
4-2	組み込み関数一覧	521
4-3	条件関数	535
4-4	疑似パラメータ	536
4-5	ヘルパースクリプト	537
4-6-1	変換一覧	575
8-1	正規表現 (Regular expression ,regex pattern)	707
8-2	疑似パラメータ(Pseudo parameters)	710
8-3	AWS固有のパラメータタイプ(AWS-specific parameter types)	711
8-4	SSMパブリックパラメータ 主なAMI ID	713
8-5	スタックの状態一覧	715
8-6	スタックセットオペレーションのステータス一覧	717
8-7	AWS::Serverless::Connector Source/Destination対応表	718
8-8	SAM ポリシーテンプレートとプレースホルダー値一覧	721